

【投稿】木っ端役人の決意

会員 村澤秀樹

私は某中央省庁の木っ端役人です。

午前4時。家に帰ってきた。国会待機や対応で、通常業務も滞る。国会議員の人数は減らないのに、対応する国家公務員は減るばかりだ。

中央官庁の職員が夜な夜な国会答弁を作成し、大臣はそれを読む。これが政治主導なのか？ 掛け声だけである。なぜ、日本の国会議員は重箱の隅をつつくような質問をするのか？ なぜ、大臣は自分の頭と言葉で日本の未来や方向性を語らないのか？

少なくとも官庁の自分の担当部署で「質問取り」（官庁職員が国会での答弁づくりのために、質問する議員にその内容を事前に聞くこと）が午後6時半以降の政治家がいたら、日付・衆参の別・委員会名・政党名・議員名を記録し、ある程度たまった段階で（議員名を出すと、木っ端役人などはすぐ干されてしまうだろうから、政党名くらいで止めておくが）どこかインターネット上に公表しよう、と今日決意した。

国家公務員は公僕だが、奴隷ではない。家族もいる。自分の健康管理も大切だ。国会待機で発生する人件費、光熱費などは、すべて国民の税金から支払われる。国会対応のため、国の通常業務が圧迫され、停滞することによって、行政サービスに不便をこうむる人もいるだろう。

誰か私の考えに賛同して、同じように行動する勇気を持つ人はいないだろうか？ 国会が、役人の原稿を読み上げる場ではなく、真の議論の府として機能し、今のような役人の国会待機や答弁づくりが昔話になることを望む。